



# このレポートについて

●酒田市では、酒田市デジタル変革戦略（令和3年3月策定）の一環として、住民参画型でのデジタルを通じた地域課題解決の枠組みである「酒田リビングラボ」という取り組みを行っています。

**酒田市デジタル変革戦略（令和3年3月策定）**

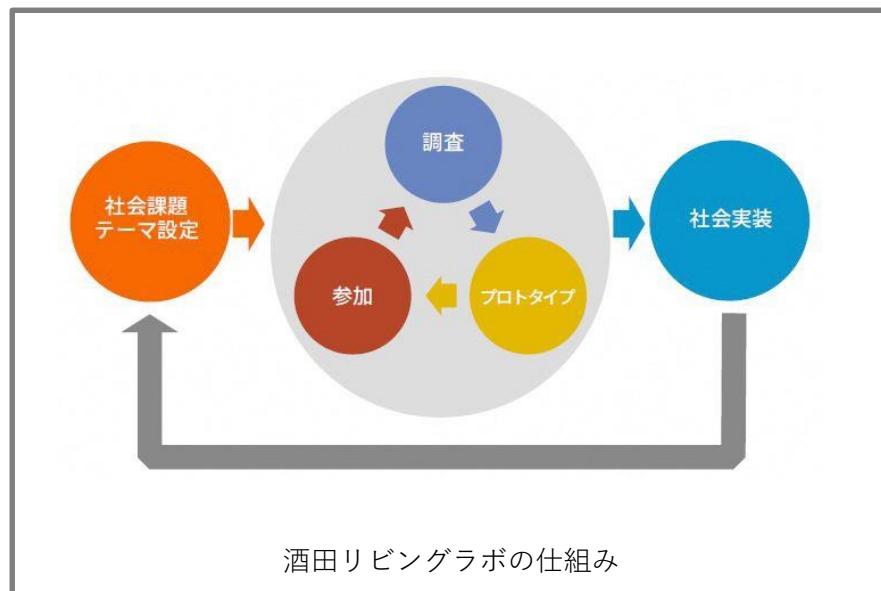
基本理念	<b>VISION</b> （実現したい未来）	：賑わいも暮らしやすさも共に創る（ともにつくる）公益のまち酒田
	<b>MISSION</b> （日々果たす使命）	：今いる場所で自分なりの一歩を踏み出す人の背中を押す
	<b>CREDO</b> （大切にしたい姿勢）	：「ちいさなこと」から変えてみる／「ぬくもり」を大切に
	<b>VALUE</b> （提案する価値）	：デジタル技術も活用することで「住民サービスのDX」「行政のDX」「地域のDX」を実現

**デジタル変革を推進するために：**

- ① “ちいさな一歩”を踏み出し公益のまちの実現につなげましょう
- ② あなたも、まちづくりに参画できます
- ③ あなたが挑戦したいことをさまざまな形で支えます

具体的な取り組み	<b>住民サービスのDX</b>	オンライン申請　キャッシュレス決済　市民マイページ　等
	<b>行政のDX</b>	市役所内部の事務効率化　等
	<b>地域のDX</b>	教育　スマート農業　産業　医療　防災　酒田リビングラボ　等

酒田市デジタル変革戦略概略



●今年度は「若者がより活躍しやすくなる」ことをテーマに、活動を行ってきました。このレポートは2022年10月に実施した2回の住民参加型ワークショップの概要と、そこから得られたインサイトをご紹介します。

# リサーチワークショップの概要

酒田の若者のニーズや障壁を探るリサーチのためのワークショップ「みんなでつくろう 酒田まちづくりDX」を、全2回に分けて開催しました。

## 【開催概要】

会場 酒田市内の公共施設

第1回 日時:2022年10月5日 (水) 19:00~20:30 参加者:6名

第2回 日時:2022年10月19日 (水) 19:00~20:30 参加者:6名

## 【参加者データ】



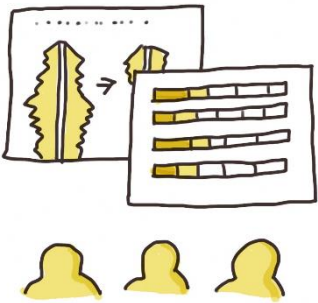

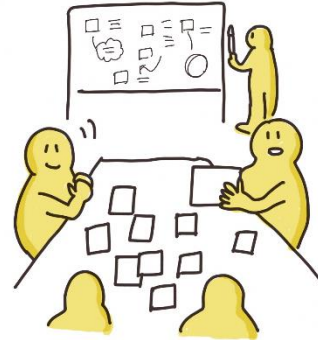
合計参加人数 7名

年代 20代:2名 30代:4名 40代:1名

出身地 酒田市:3名 酒田市以外の山形県内:1名 県外:3名

# 第1回「酒田で暮らしていく上でのモヤモヤを語ろう」

## 第1回の流れ

<p>①酒田市DX室よりリビングラボとワークショップの趣旨説明</p> 	<p>②サイコロトークの自己紹介で和やかな雰囲気づくり</p> <p>2のテーマは「おすすめのラーメン店」です</p> 	<p>③地域の現状をデータや市民アンケートで確認 (人口動態、若年層の流出、住みやすさ等の満足度)</p> 	<p>④「日々の暮らしの中でどんなことに不便や不満を感じてますか？」という質問に対し、テーブルの上に広げられた写真の中で気になったものを各自数枚選択</p> 	<p>⑤一人ひとりカードを見せながら選んだ理由を話す。インタビューアが深堀質問をし、発言をホワイトボードに板書</p> 
---	---	--	--	---

## 第1回の発言概要

もっと地域の活動に参加したいけど仕事で時間がとれない・・・

ゴミ出しなど地域のローカルルールに抵抗感がある

除雪も大変で、雪道の運転も怖い！！

地域の人とのコミュニケーションで距離感に悩む

近所の家が空き家になり、思っていたより交流が少ない

地域の大人の人に、若者の新しい働き方や生き方を理解してもらえない

海の漂着ゴミが汚く、子どもを連れて行こうと思えない

娯楽施設が限られ、ライブなど若者向けの催しも少ない



ワークショップの発言を板書したホワイトボード

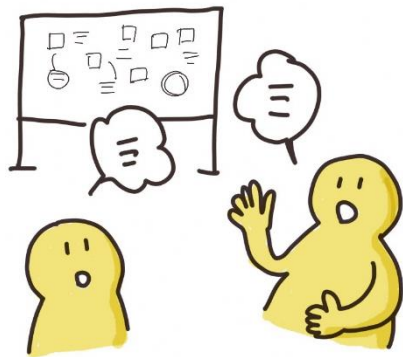
# 第2回「私たちの望む未来の暮らしを語ろう」

## 第2回の流れ

- ①「スマートフォンの写真で一言」近況報告で打ち解けた雰囲気づくり



- ②前回の発言をふりかえり、発言の補足や追加の「暮らしていく上でのモヤモヤ」についてフリートーク



- ③「こんな働き方や暮らし方ができたらいいなという理想の未来の姿は？」という質問に対し、テーブルの上に広げられた写真の中でイメージに合うものを各自数枚選択



- ④一人ひとりカードを見せながら選んだ理由を話す。インタビュアーが深堀質問をし、発言をホワイトボードに板書



## 第2回の発言概要

### 暮らしのモヤモヤ

都会で話題のものが手に入らない

車がないと不便な上、ガソリン代が内陸より高い

移住しての生活上の疑問が小さすぎて誰にも相談できない

共通認識がないので、質問の意図がわかってもらえないような気がする

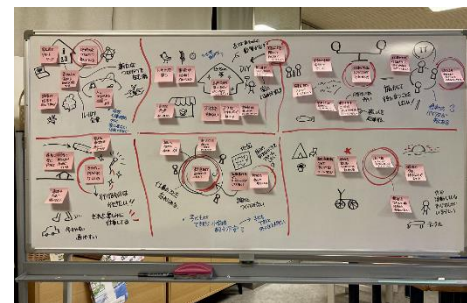
### 理想の未来

リモートワークをしながら自然を感じる生活がしたい  
世代間交流できる居場所を作りたい

ワークとライフのバランスが取れた暮らしをしたい。収入より、社会貢献など他者の喜ぶことに力を入れたい

家や食材など自分で作る自給自足の生活をして、遅く生きたい

人に巻き込まれながら地域活動をし、地元の魅力を伝えたい



発言を板書したホワイトボード

# 若者調査から得られたインサイト

リサーチワークショップから得られた発言を分析し、若者が酒田で活躍するのを阻む、5つの観点を整理しました。

# 自分に共感して、活動を助けてくれるような、同世代とつながれない

若者は、地域に若い世代が少なくなっていることもあり、同世代が集う場がないため、自分が見つ不安や希望を話せる場がないという風を感じている。また、自分で地域の活動をしたい人も巻き込まれたいタイプの人もあり、もし人々と繋がれたらもっといろいろなことができると感じている。



- 地域の活動は**同世代はあまりおらず上の世代しかいない**のでどうしてもやりづらい。
- Uターンして戻ってきても**地域の人との距離感は難しい**。疎外感を感じる。同世代は関東に出ていってしまっているので自分もここにも、と思ってしまう。
- 地域に対しては、活動している人、知識がある人に**協力して手助けができれば**と思う。

## 従来の地域活動の枠組みは若者には参加しづらい

若者は、地域活動にはもっと参加したいと思うが、仕事の時間と重なるので参加が難しいと感じている。

- 地域の雪囲いの活動に参加したいと思っているが、**仕事がある日に5時半からだ**と参加できないので気まずく思う
- 消防団に加入しているが、**仕事の時や休みは地域にいないので、実際有事には活動できない**と感じ、存在意義についてもややもやしてしまう。





## 酒田での生活上遭遇する悩みに対して、他者と交流・相談したりして解決するのが難しい

酒田での生活は、雪への対処や地区によるゴミ出しの違い等、生活上の細々した苦勞が発生してくるが、それについて相談できる先があまりない。移住者や若者等、酒田での生活経験が少ない人のほうがそれに適応するのに苦勞を感じている。



- 移住者という視点だと、困ったことを相談する先がない。共通認識がないから質問してもわかってもらえないのではないかと思ってしり込みしてしまう。
- 車で運転していて雪道で怖いところがあるが対処がわからない

# 4

## 若者は新しいチャレンジをしたいと思っているが、上の世代（地域や職場）が自分たちに理解を示してくれない

自分が地域のために働きたいと思っても、地域づくりのための新しい働き方について、地域の人や職場の人等の上の世代は理解を示してくれないと感じている。

- 就活をしないで地域での活動を立ち上げるという選択を選んだが、**地域の人に話しても「定職につけよ」といった反応があり、もやもやしてしまう。**
- 自分では仕事でも地域のためになるような考え方をとりたいが、**企業からはどうしてもお金の視点が求められてしまうと感じる。**



## 自分や家族のライフスタイルと、土地の特性が合わない

自分や家族の望むライフスタイルと、土地の特性が一致しなくなると、住むのにストレスになってしまう。逆に土地の特性である自然の豊かさと自分のライフスタイルが合っていると満足を感じやすい傾向がみられた。



- 家族を持ち、子どもの育成環境を考えると酒田にずっと住み続けるか分からない。
- 頻繁でなくても気が向いたときに都会にアクセスしやすい環境が望ましいと感じる。
- 酒田は自然環境に優れていて、自分はその価値を見出している。